

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	高齢者における術後予後に関する術前因子の検討
	研究目的	高齢化社会をむかえ、80歳以上の罹患率、手術患者も増加しています。若年症例と比較すると術後の社会復帰まで時間がかかる症例も多いです。術前評価の一部として測定したプレアルブミンとレチノールといった採血結果は、肝臓で合成される半減期の短い蛋白で、栄養状態や、炎症疾患の評価に用いられてきました。また手術手技によって術後の回復が変わる可能性があります。今回、80歳以上の高齢者を対象に、プレアルブミン値、レチノール値などの採血結果や、手術手技の影響と術後予後との相関を検討し、これらが術後回復を予測する因子になりうるかを検証しました。
	研究対象者	2010年8月から2020年10月に大腸手術を施行した80歳以上の症例
	研究期間	西暦 2020年 12月 14日 ~ 西暦 2022年 3月 31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input checked="" type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器外科 佐藤純人
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし